

平成28年度 小平市 地域型地域ケア会議 実績報告

	会議種別 担当包括	実施月	検討内容	参加機関	開催結果
1	□個別課題 ■地域課題 けやきの郷	5月	①認知症になっても、住み慣れた地域で自分らしく暮らすために地域で何ができるのか。 ②地域の現状と今後の取組みについて、地域の方々と認知症の方を支援する体制作り等の構築を目指し課題を検討する。	民生委員児童委員、自治会、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい自治会長や包括職員等で顔合わせと地域の情報共有ができた。 ・民生委員児童委員と協働し、認知症高齢者をはじめ独居・高齢者のみ世帯等の支援を実施していくことを確認した。 ・自治会同士の情報交換ができた。
2	□個別課題 ■地域課題 多摩済生ケアセンター	5月	現在の小平駅前相談所利用者の方から多く聞かれる、開所継続の声をどう形にしていくかと、居場所としてのあり方についての課題を検討する。	自治会長、商店会、駅前相談所ボランティア、民生委員児童委員、見守りボランティア、地域支援担当、市民協働・男女参画推進課、多摩済生ケアセンター、中央センター	<ul style="list-style-type: none"> ・運営について協議する場を立ち上げ、居場所としての方針や名称変更や費用負担等についての検討の必要性を確認できた。 ・相談所としての機能を果たすため、広報の継続、周知の方法についての改善の必要性が確認できた。
3	□個別課題 ■地域課題 小川ホーム けやきの郷	6月	①高齢者が安心して生活できる地域づくりについて。 ②福祉のサービス事業所だけでなく地域の民間企業の方からも意見をもらい、地域の現状を把握し課題を明らかにする。	地域支援担当、小川公民館、津田公民館、上宿公民館、民生委員児童委員、東京都住宅供給公社、タクシー会社、建設会社、緑成会病院、小川ホーム、けやきの郷、中央センター	<ul style="list-style-type: none"> ・地域住民、地域の民間企業、専門職、行政間の顔の見える関係が構築できた。 ・地域の課題発見と、民生委員児童委員や地域包括支援センターの情報が広まり、地域の見守りや気づきの声が寄せられるようになったことを共有し、気づきの声の重要性を確認できた。 ・地域をつなぐ機関として、地域包括支援センターの役割の重要性を確認できた。

4	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	7月	地域の現状と課題について地域の方々と地域包括支援センターとの意見交換を通し、地域で高齢者の方を包括的に支援する体制等の構築を目指し課題を検討する。(一小北地区、栄町2丁目地区、栄町3丁目地区)	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者間で地域の情報共有と、各種窓口が遠いなどの課題の把握ができた。 ・個別に対応が必要なケースについても情報共有ができ、今後の支援の足がかりにできた。 ・今後も、関係者の協働により、地域の高齢者を支援していくことを確認できた。
5	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 中央センター	8月	認知症高齢者が地域のなかで安心して暮らし続けるためには、どのようなつながり・関係性が構築されればよいのかを考え、現在の地域の中にどのような課題があるのか、そして何が出来るのかを関係者とともに考える。	民生委員児童委員、見守りボランティア、スーパー、コンビニ、地域支援担当、中央センター	<ul style="list-style-type: none"> ・外出した際に立ち寄る居場所が少ないことは課題であり、その必要性が確認された。 ・認知症への理解を深めていくことの周知の必要性が確認できた。 ・閉じこもりになることなく、気軽に外出ができる居場所の創設が必要であると確認できた。
6	<input type="checkbox"/> 個別課題 <input checked="" type="checkbox"/> 地域課題 けやきの郷	9月	地域の現状と課題について地域の方々と地域包括支援センターとの意見交換を通し、地域で高齢者の方を包括的に支援する体制等の構築を目指し課題を検討する。(十二小地区)	民生委員児童委員、自治会長、けやきの郷	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者間で地域の情報共有と、地域関係の希薄化などの課題の把握ができた。 ・コミュニティカフェ等の情報を共有することができた。 ・今後も、関係者の協働により、地域の高齢者を支援していくことを確認できた。

開催回数 6回 (多圏域による合同開催1回)

平成 28 年度 小平市 個別型地域ケア会議 実績報告

	会議種別 担当包括	実施月	検討内容	参加機関	開催結果
1	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 中央センター	5月	徘徊を繰り返す認知症高齢者（高齢夫婦のみ世帯）への支援方法と今後の生活について ①認知症状の悪化。徘徊が多くなっていること。 ②同居の夫が本人の状況を理解していない様子があり、適切な支援を行えていない。 ③生活環境の改善の必要性。 ④今後の居所について検討。	当事者家族、本人主治医、ケアマネジャー、通所介護事業所、訪問介護事業所、民生委員児童委員、中央センター	<ul style="list-style-type: none"> ・支援者が、認知機能の低下などにより自分で判断できない人の安全を見極めて守る必要性について確認できた。 ・現状のままでは、認知症の家族に対して適切な支援ができてないと判断しなくてはならないことを伝える必要性を確認した。 ・利用サービスを追加し調整することをの必要性を確認した。
2	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小平健成苑	5月	自傷の恐れのある利用者の今後の対応についてと家族への支援について	家族、ケアマネジャー、医師会訪問、保健所、ショートステイ事業所、精神神経センター看護師、高齢者支援課、中央センター、小平健成苑	<ul style="list-style-type: none"> ・介護サービスの提供により、家族の介護負担の軽減につなげる。 ・関係機関での見守りの連携を図る。 ・家族に対して、受診の勧めと妻の不安の状況を汲み取っていく期間の必要性を確認した。
3	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小川ホーム	6月	①心身状態の低下がみられる高齢者と精神疾患・アルコール依存症の子の共依存同居の支援を考える。 ②現在状況の確認と情報共有。 （昨年2月からの継続ケース）	保健所、障がい者支援担当 地域支援担当、権利擁護センター、NPO法人、小規模多機能、中央センター、小川ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・現在のそれぞれの状況の情報共有ができた。 ・今後想定される対応について、関係者で確認ができた。

4	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小川ホーム	6月	認知症独居高齢者の支援について ①本人の意向、心身の状況、生活状況について ②関係者の見解と意見 ③今後の支援方針、具体的な支援内容の検討	司法書士、権利擁護センター、ケアマネジャー、通所介護事業所、小川ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・本人の意向と現状、各関係者の専門職としての意見を確認、情報共有ができた。 ・関係者で連携して支援していることを認識してもらい、治療を積極的に行う必要があることを本人に伝えることができた。 ・本人の状況の変化に応じた対応と、継続した会議の必要性を認識した。
5	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小川ホーム	6月	糖尿病による腎症、網膜症及び精神遅滞の利用者及びその家族の支援について ①家族全員がそれぞれの問題があり、それぞれ解決しないといけない問題がある。 ②まずは一人ひとりの現状を把握し、情報の共有を図り、今後の支援の方向性を検討していく必要がある。 ③どの機関がどのように関わり、支援をしていけば良いのかを確認する。	本人主治医、地域支援担当、訪問看護事業所、小川ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・医療、介護、障害の分野を超えた連携、ネットワークの必要性を参加者間で確認できた。
6	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小川ホーム	8月	問題行動のある一人暮らしの認知症高齢者が、住み慣れた自宅でどこまで暮らせるか。 ①本人の現状（問題行動）、及び近隣関係とのこれまでのいきさつ等の情報共有をし、本人が望む在宅生活がどこまで可能かを考える。 ②これまでにこじれてしまった近隣住民の理解を得るためにどのような支援ができるか。	民生委員児童委員、アパート管理会社、生活支援課、ケアマネジャー、認知症コーディネーター、地域支援担当、中央センター、小川ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・独居で地域になじみの少ない認知症高齢者への理解と見守りについての取り組みの必要性が認識できた。 ・認知症高齢者にもわかりやすいゴミ集積所の表示の必要性を確認した。

7	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 多摩済生ケアセンター	8月	支援拒否の独居高齢者への支援について ①現在の生活状況の共有 ②今後の支援方針の検討	地域支援担当、認知症コーディネーター、中央センター、ケアマネジャー、多摩済生ケアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・家族の関わり方、支援能力について情報共有と検討ができた。 ・介護サービスの利用の提案の必要性について確認できた。 ・今後、想定される対応について関係者間で確認できた。
8	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 中央センター	8月	虐待（ネグレクト）疑いに対する対応を協議する ①サービス導入ができない場合や、適切な介護が提供されない際、本人の身の安全の確保について検討。 ②長女の言動、行動等が病的な側面からもたらすものであるか、また社会通念上適切であるのかを検討。	弁護士、医師、民生委員児童委員、ケアマネジャー、訪問看護事業所、権利擁護センター、地域支援担当、小川ホーム、中央センター	<ul style="list-style-type: none"> ・虐待に準ずると思われるケースについて、関係者間で共通の認識を持つことができた。 ・長女への支援チームの構築。
9	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 多摩済生ケアセンター	8月	税金関係の未納、借金があるケースへの支援について ①未納金の支払い方法 ②本人の生活能力の確認 ③今後の支援の方向性の検討	施設長、権利擁護センター、地域支援担当、居宅介護支援事業所管理者、ケアマネジャー、訪問介護事業所、中央センター、多摩済生ケアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・成年後見制度の利用申請を行う。 ・家族の協力を得ながら、未納金を返済していく。 ・本人の身体状況と家族の介護能力を把握する。
10	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小平健成苑	8月	精神疾患がある介護者長女への対応、今後の支援について ①本人に対し精神疾患がある長女から暴力、暴言がある。 ②ヘルパーサービスを利用中、長女から本人、ヘルパーに対して暴言や嫌がらせを受けサービスに入るヘルパーが1人しかいなくなってしまい事業所として対応に困っている。 ③長女の受診、治療が中断している。長女へのサポート体制がない。	家族、ケアマネジャー、地域支援担当、保健所、訪問介護事業所、通所介護事業所、訪問看護事業所、福祉用具事業所、特別養護老人ホーム相談員、小平健成苑	<ul style="list-style-type: none"> ・長女自身が相談できる場所をもつこと、多摩小平保健所の保健師に関わってもらうこと、ケアマネジャーから紹介し可能であれば訪問する方針を確認した。 ・介護の負担が軽減するよう対応すること、ショートステイや特養の申込みを検討することの確認ができた。 ・長女が本人を虐待せずに生活できるように長男と連絡をとり、関係者間の情報共有と連携の必要性を確認した。

1 1	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 多摩済生ケアセンター	8月	支援拒否の独居高齢者への支援について（継続ケース） ①認知症状にともなう金銭管理方法について確認 ②今後の受診と支援方法の検討	地域支援担当、訪問介護事業所、ケアマネジャー、権利擁護センター、中央センター、多摩済生ケアセンター	<ul style="list-style-type: none"> ・金銭管理について、所持金がなくなった段階で権利擁護センターが支援に関わる。 ・支援内容については、訪問介護・通所介護の利用を減らして経過を見る。 ・息子と話し合いが出来れば、成年後見制度利用に向けて受診へとつなげる。
1 2	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小川ホーム	9月	心身の状態低下がみられる要介護2の男性高齢者と発達障害・アルコール依存症の息子の支援を考える ①本人と家族の心身状況、生活状況の確認と情報共有 ②本人と家族の今後の支援方針の検討 （昨年2月からの継続ケース）	ケアマネジャー、障がい者支援課、地域支援担当 中央センター、権利擁護センター、小川ホーム	<ul style="list-style-type: none"> ・加齢に伴い生活に支援が必要となった高齢者と、自立困難な子供との同居世帯の問題が多く発生している状況を、参加者間で確認できた。 ・障がい者であり、アルコール依存症に陥っている若年者に対する訪問等による相談支援の必要性を確認できた。
1 3	<input checked="" type="checkbox"/> 個別課題 <input type="checkbox"/> 地域課題 小平健成苑	9月	利用者の今後の対応についてと妻への支援について ①妻から本人への暴力、暴言があり、本人の安全・生命の危険がある。虐待が疑われ、本人が落ち着いて生活できる状況にない。妻は精神的に不安定な状況であり、精神科入院のため、病棟まで行ったがその場でとりやめたことが何度もあり任意入院は難しい。 ②妻が精神科の薬を過剰服用し車を運転、自損事故を何度か起こしている。運転による人身事故の危険も予測される。娘に対しても暴言・暴力がある。	家族、保健所、中央センター、精神・神経センター看護師、小平警察署、居宅介護支援事業所、地域支援担当、通所介護事業所、訪問看護事業所、小平健成苑	<ul style="list-style-type: none"> ・娘にメール等で、本人の危険な状態がわかったら警察に通報するよう助言できた。その折は妻を保護し、本人は家族に介護してもらうことについて確認ができた。 ・本人と妻の生活を続けるなら介護サービスを利用し、毎日必ず誰か入る状況の必要性を確認し、本人と妻に家族同席の上、地域支援担当、地域包括支援センター、ケアマネジャー、訪問看護事業所と役割分担をして話す場を設けることを確認できた。

開催回数 13回